

三浦和義さん一周忌 事態の進展を願って

「三浦和義氏の逮捕に怒る市民の会」事務局

三浦和義さんが昨年10月11日（現地時間10日）、ロス市警本部留置場で急逝されて早くも1年がたちました。2月のサイパンでの身柄拘束以来、三浦さんの救出を目指して活動してきた「三浦和義氏の逮捕に怒る市民の会」の呼びかけで10月12日、「三浦和義さん一周忌 事態の進展を願って」の集いが東京・水道橋の東京学院で開かれました。

集いには、「市民の会」会員など三浦さんと交流のあった方々約20人が参集しました。冒頭、司会の客野美喜子さんが「三浦さんが亡くなられて1年。皆さんが、ほんとうに無念だったろうと胸を痛め、その無念を晴らすには真相解明しかない」と活動してきました。きょうは一周忌を迎え、改めて今後の事態の進展を願って話し合いたいと思います」とあいさつ。最初に参加者全員で1分間の黙祷を捧げ、あらためて三浦さんのご冥福を祈りました。その後、現地ロスの代理人の活動状況、この間の三浦さんの死をめぐる主な報道、昨年2月以来の人権侵害報道に対するメディア訴訟の現状など、約3時間にわたって話し合いました。以下、その概要を報告します（「市民の会」事務局・山口正紀）

山際永三さんが経過報告

集いではまず、人権と報道・連絡会の山際永三事務局長が、ご遺族の近況 この1年の主な報道 ロスの代理人の活動 などについて、次のように経過報告しました。

ご遺族の近況

ご遺族のYさんにきょうの会合のことをお伝えしたところ、「皆さんに感謝します。よろしくお伝えください」とのことでした。Yさんとは時々電話で話していますが、三浦さんの死を確定させてしまうことが怖い、そんな1年だったようです。

ロスから真相解明に向けて「よい情報」が入るのを待って、和義さんの部屋や所持品、そしてお骨もそのままになっていますが、最近は「いつまでもこのままでは」という気になってこられたようです。近く納骨するということで、お墓も決められました。Yさん自身、本当に苦しい1年で、和義さんの死を「自殺」とは到底信じられないのです。したがって私の方からは、Yさんに、今後に備えてサイパンからロスに移送される頃の三浦さんの言動、電話の内容、Yさんがロスに駆けつけた際の出来事などについて、細かくノートしておいてくださいと言ってあります。

この1年の主な報道から

最近、メディアもあまり三浦さんにふれない状態ですが、10月9日に共同通信が《三浦元社長自殺「納得できない」 死亡1年、遺族提訴も》という記事を配信しました。記事本文では「ロスで死亡して1年」と書いて、「自殺した」という言葉は使っていません。

主な内容は、《遺族によると、ロスの弁護士事務所が、死亡原因や経緯について調査を継

続中。市警に対し、元社長が死亡した留置場の視察や、死亡時の状況に関する詳しい説明を求めているが、市警側は応じていないという。遺族は「1年たったが、終わったわけではない。自殺するような人だったと思えない」と話した。法的手段の時期や方法については未定」というものです。この記事は、Yさんとしては、「今後も真相解明を続けていく」という公的メッセージになるもので、その他のことについては一切コメントしていません。

この1か月前の9月11日、『毎日新聞』に、『《看守らに問題なし》 / 三浦元社長自殺で報告書 / ロス市警』という見出しの記事が出ました。ロス市警がまとめた「看守らの対応は手続きに従ったもので、元社長の死に影響はなかった」との報告書をロス市警察委員会が9月1日に承認した、という内容ですが、なんで今ごろこんな報告書、そしてこんな記事が、という感じがします。昨年12月にロス郡検視局が「死因は自殺」という報告書を出していますが、今回は警察として「対応に問題はなかった」というもののようです。

この記事は、報告書が「自殺発見後の警察捜査課への報告が規程の15分間より遅かった」「自殺に使われたひもを切る特殊なナイフを扱うトレーニングが行われていなかった」と指摘したが、「看守らは適切に行動した」と結論づけた、と書いています。ロス市警の管理責任を問われた場合に向けた、言い訳じみた対応だと思わざるを得ません。

この内容の記事は『毎日』だけで、他のメディアには出ていません。

『毎日』のネットにはもう少し詳しい記事が出ていて、元社長は背中痛み止めのほか、抗不安睡眠薬のアチパンを服用していた 留置場の係官は「たいへん静かだった」と証言 自殺を防ぐための24時間監視は不要と判断して30分おきに看守が巡回する一般房に移した 10月10日午後9時31分の巡回直後、長袖シャツを2段ベッドの手すりにくくりつけて首をつっているのが33分に発見された と書かれています。そのうえで、記事は「静かだったというのはうつ状態だったと考えられる。留置場に入る時点で自殺を計画していた可能性もある」という精神科教授の話を載せています。何かおかしい記事です。

この記事を書いたのは、毎日の吉富裕倫というロスにいる記者ですが、この記者は今年1月にも、とんでもない記事を書いています。1月11日付《ロス市警 / 「殺害」訴追方針だった / 三浦元社長 / 白石さん事件で》という記事です。

この件は、サイパンでの身柄拘束の当初にもいくつかのメディアが大きく書いたことであり、84年の「ロス疑惑」報道当時、「ロス郊外で発見された白骨状態の遺体と行方不明だった白石さんという女性の歯型が一致した」と騒がれた問題です。金歯など治療の跡が一致した、というならまだしも、歯の並び方・すきまが一致などという曖昧な話で、結局三浦さんは逮捕も起訴もされなかった事件です。こんな事件で今さら「訴追の方針だった」など書いて、どういう意味があるのか。わざわざこんな記事を出した吉富記者の執念のようなものさを感じます。

昨年12月5日には、共同通信が配信した記事が《ロス銃撃 / 《「三浦元社長は自殺」 / 検視局が正式報告書》などの見出しで各紙に掲載されました。ロス郡検視局の正式な司法解剖報告書が公表された、という報道です。この記事は「報告書によると」として、《ロス

市警の留置場監房に一人で収容された元社長は十月十日夜、監視の合間の約七分間に、シャツをひものようにして、二段ベッドの上部の金属バーからつるして自殺を図った》と書いていました。この記事には「二段ベッドの高さや、紐の長さなども考慮しないと、法医学だけで断定するのは無理があるのではないか」という山際のコメントが付けられました。

首つり自殺の場合は、どれだけ体重がかかったが大きな問題です。死刑執行では、死刑囚の首にロープをかけて穴に落とし、その衝撃で神経などが切れ、全体重がかかって、完全に死亡するまでは10分ぐらいかかるといわれています。三浦さんの場合、なぜ蘇生できなかったかも大きな問題で、三浦さんの身長とベッドの高さをクリアにしないと、この報告書だけでは自殺と断定する裏付けにはなっていない。遺族側弁護士が依頼した独自鑑定結果と比較しなければ断定はできないと考えます。

ロスの代理人の活動状況

ロスでYさんの代理人になっているゲラゴス弁護士には、こちらからは時々英語に翻訳した資料を送ったりしています。三浦さんの葬式での弘中弁護士、新倉教授、山口さんの弔辞を送りました。雑誌に出た記事として、河村さん(『紙の爆弾』)、山口さん(『創』)の書いたものをやはり英文にして送ってあります。6月には、その河村さんと山口さん2人の名前で、ロスでの調査がどうなっているか、方向はどうなるのかを教えてほしいという手紙を出しました。それに対しては、ロス市警にいろいろな資料を出すように交渉しているが、時間がかかっている、もう少し待ってほしいとの返事が来ています。

三浦さんがサイパンからロスに移送された時には、ごくわずかな品物しか持っていかなかったらしいのですが、その所持品、Yさんにとって記念になるブレスレットや書物、そして着ていた衣服全部、死ぬときに使ったとされているシャツなど、まだまったく返還されていません。弁護側で行なった2つの検視の報告書もまだ完成していないそうです。

ロスの日本人社会

ロスの日本人社会では、84年当時からいろんなフリージャーナリストがジミー佐古田たちと連動してきたようです。『新潮45』の08年12月号に《一美さんの母・激白》という記事が出ましたが、その記事を書いた加藤祐二という人物は、「三浦は怪しい」という噂を最初にばらまいた『13人目の目撃者』という本を、北岡和義という元読売新聞記者と一緒に書いた人です。いわゆる「ロス疑惑」は、1984年の週刊文春から始まったとされていますが、その前から、ロス現地で噂を作り出した者がいるということ、われわれは注意しておく必要があります。

ロス市警報告書(『毎日』報道)で浮上した新たな疑問(山口)

山際さんの報告に関連し、「ロス市警が三浦さんの死に関する報告書を作成、ロス市警察委員会がこれを了承した」との『毎日』報道について山口が次のように補足しました。

「発見」経緯に深まる疑問

ネット版の『毎日』記事で、「10月10日午後9時31分の巡回直後、長袖シャツを2段

ベッドの手すりにくくりつけて首をつっているのが33分に発見された」と書かれているのを読んで、昨年以来の報道による「自殺」説に、さらに新たな疑問が生じました。

昨年10月11日、死亡直後にロス市警が公表した情報は、現地時間10日午後9時45分ごろ、Tシャツで首を吊り、意識不明で発見 病院に搬送したが、午後10時ごろ死亡発見10分前に巡回した時、異常はなかった 遺書はない、というものでした。

しかし、これだけで自殺と断定するにはいくつも疑問がありました。「ロスで闘う」と移送に応じ、ロス到着直後、領事に面会して食事内容・弁護士接見など今後のことを相談していた人が、なぜ遺書も残さず自殺？ 独房の設備は？ 何にTシャツを括り、どんな状態で首に巻いていたのか 房の監視カメラは？ 「発見」時の写真撮影は？ 救命措置、死亡を確認した医師の所見は？ などです。

その後、ロス市警から出された「自殺」情報は、次々変化しました。最終的には、「Tシャツを首に巻き」は「二段ベッドの柵にワイシャツを括りつけ」に、発見時刻は「9時43分」(見回りの8分後)に、死亡確認は「10時24分」になり、発見から死亡確認までの時間は最初の「15分間」から「41分間」へと、大きく変更されました。

この時点でも、仮に看守の見回り直後に自殺を図ったとしても、発見までの8分間で死に至るのか 発見時の状態、衣服、死亡時刻などごく基本的な情報が、なぜ当初あいまいにしか伝えられず、その後大きく変わったのか などの疑問が残りました。

それが、今回のロス市警報告書では、「長袖シャツ」「二段ベッド」は同じですが、発見時間が「9時31分の巡回」直後の「9時33分に首をつっているのを発見」となった。死亡確認時刻は記事には書かれていませんが、三浦さんの「異変」発見時刻が、また変更されたこととなります。

その結果、巡回時刻は当初の「9時35分」「9時35分」「9時31分」に、異変発見時刻は、当初の「9時45分」「9時43分」「9時33分」になったわけです。

この報告書によると、三浦さんは「9時31分の巡回」直後、長袖シャツを二段ベッドにくくりつけ、それを首にかけて自殺を図り、それも含めてわずか2分足らずで死に至った・または蘇生不能の状態に至ったと、いうこととなります。

当初の7~8分でも短すぎるとの疑問があったのが、2分になった。ほんとうにこんな短時間で「自殺」が実行できたのか。疑問はいつそう深まったと言えます。

私はもともと、もし長袖シャツで自殺を図ったとしたら、なぜ最初「Tシャツ」の情報が流れたのか 発見・死亡確認時刻といった基本的な情報がなぜ変更されたのか、などの疑問から、何らかの「作為・情報操作の痕跡」を感じていました。留置場内で、何か公表できないトラブルが起き、情報を一本化する前に混乱が生じたのではないかと。

もし今回のロス市警報告書の「2分以内で自殺実行・死亡」という情報が、当時流れていたら、だれもおかしいと思ったのではないかと、思います。真相は依然不明ですが、今後、ロスの代理人が依頼した鑑定結果報告が完成すれば、この「2分間」問題も、「自殺」への重大な疑問に浮上する可能性があると思います。

メディア訴訟が本格化へ（弘中弁護士が中間報告）

昨年 2 月以降再燃した「ロス疑惑」報道は、再び三浦さんを犯人視したばかりか、ご家族のプライバシーも侵害しました。これに対して、Yさんはいくつかのメディア訴訟を起こしており、さらに近く、三浦さん本人に対する名誉毀損報道に対する訴訟も本格的に始まります。集いでは、弘中弁護士がメディア訴訟の現状について次のように報告しました。

新聞報道などを提訴の予定

報道訴訟は、先行したYさんの裁判（『週刊新潮』など3件）に続いて、年内に三浦さん本人に関する訴訟を5件ほど起こす予定で準備を進めています。

Yさんの訴訟では、つい2週間ほど前、『週刊新潮』訴訟で勝訴しました。Yさんの名前・顔写真を出したうえ、住居のことなども含めてプライバシーを侵害した、違法行為があった、として80万円の賠償が認定されました。また、『フラッシュ』も訴えています。これは、Yさんの古い写真に別人（白石さん）の名前を載せる、というひどい報道を訴えたもので、こちらも勝てると思います。ほかに、もう1件あります。

計画中の三浦和義さんに関する訴訟は、新聞・テレビ・ネットニュースを相手にするのですが、和義さんが亡くなっているので遺族が原告となって引き継ぐことになります。サイパンでの身柄拘束の頃「新証拠」があるとの記事を書き立てて、その後そんなものはないことが明らかになったにもかかわらず訂正もしなかった新聞、和義さんの名誉を毀損するネットニュース、コメンテーター個人などを訴える予定です。

私たちは10人以上の弁護士で、新聞、テレビ、雑誌などに分けてチームを作り、訴訟準備をしています。

今後の闘いをめぐって参加者が意見交換

以上の報告に続き、参加者から、今後の活動についてさまざまな意見が出されました。アメリカでの取り組みについては情報が少なく、隔靴搔痒の感は否めませんが、それぞれ「日本でできることをやり続けよう」と訴えられました。以下、その一部を紹介します。

「日本政府の責任追及も」 浅野健一さん

日本の最高裁で無罪が確定していた三浦さんをアメリカ当局が拘束したことに対して、日本政府、外務省、法務省は何もしなかった。この問題について、何かできないか、と思っています。また、三浦さんの拘束について、米当局に情報公開を要求することもできるのではないかと。それについて日本政府への要請書を出してみてもどうでしょうか。

「共謀罪の日米キャンペーンだったのでは」 河村シゲルさん

三浦さんの拘束の背景には、共謀罪に関する日米捜査協力の密約があったのではないかと、あの拘束は、共謀罪を作るための日米キャンペーンだったのではないかと、と思っています。僕は、自殺だとは思っていません。自ら死んだように見せる殺され方だったと。ロス市警で睡眠剤や鎮痛剤が出されたという話がありますが、どんな薬を出したのか。それから、

首をつたとされるシャツやベッドの写真をなぜ見せてくれないのか。隠しているとしたか
思えません。友人として、三浦さんが自殺するわけがない、と思っています。

「遺族には死因を知る権利がある」 今井恭平さん

自殺・他殺のどちらかを主張しなくても、遺族には死因について詳しい事実を聞く権利
があると思います。仮に自殺だとしても、それについても遺族には十分な説明がなされて
いない。亡くなった時の状況を知りたい、という思いは当然です。それに関して、「説明責
任を果たせ」と言うことができるのではないのでしょうか。遺族として、そうした情報につ
いて開示請求の訴訟ができないのでしょうか。

11月16日の人報連例会でメディア訴訟報告へ

話し合いの結果、当面の取り組みとして、11月16日に予定されている「人権と報道・連
絡会」の11月定例会（午後6時～9時、水道橋・東京学院）で、三浦さんのメディア訴訟
の現状と計画について、代理人弁護士から詳しい報告をしていただくことになりました。

一周忌の集いに参加できなかった方も、ぜひご参加ください。「市民の会」としても、こ
のメディア訴訟を支えていきたいと考えています。（以上）